

行事予定表		
1	土	
2	日	
3	月	
4	火	交通安全教室 (10:00)
5	水	給食費引き落とし日 (3歳児以上)
6	木	七夕クラス写真撮影 (0歳児~2歳児)
7	金	七夕 (笹焼き) 七夕クラス写真撮影 (3歳児~5歳児)
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	ピヨピヨひろば (10:00)
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	夏まつり (2歳児以上の2部制)
16	日	
17	月	海の日
18	火	
19	水	お弁当とうデー 読み聞かせ (14:00)
20	木	ふたばっこまつり (0歳児~3歳児)
21	金	ふたばっこまつり (4・5歳児)
22	土	
23	日	
24	月	避難訓練
25	火	巡回相談 職場体験 (下根中より)
26	水	職場体験 (下根中より)
27	木	誕生会
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

台風は夏の終り頃から来るのが通常だが、梅雨にもならない6月初めにきて、大雨を降らした。急に暑くなったり寒くなったり、猛暑日にプールを準備したら、翌日、急に寒くなりプールは中止。急激な寒暖差に体力のない年少さんは体調を崩したが、年長さんは、もう真っ黒に日焼けして泥んこ遊び、プールに興じる。梅雨の晴れ間に、お母さんは洗濯に大忙し。入道雲と夏の太陽が、そろそろ交代と、梅雨雲の向こうで出番を待っている。今年の夏は猛暑になりそうだ。



今月の予定の中から・・・

- 交通安全教室 (4日)
 - ・今年度初めて4歳児も参加し、信号の見方・渡り方を、パネルシアターを見て学びます。
- 七夕クラス集合写真撮影 (6日・7日)
 - ・6日・7日、は、クラスごとに集合写真を撮り、スマートビューで後日配信しますので、9時までの登園をお願いします。

●七夕 (7日)

7日の夜は、是非お子さんと夜空を見上げてみてください。晴れるといいですね！

●夏祭り (15日)

今年は、一部2・3歳児、二部4・5歳児で行います。プログラムは後日配布しますのでよくご覧ください。なお、当日の土曜保育は実施しませんのでご了承下さい。



●お弁当とうデー (19日)

お家の方の手作りお弁当！子ども達は、毎月楽しみにしています。暑い日が続いていますので、お弁当は必ず冷ましてから蓋を閉め、保冷剤を入れてください。

●ふたばっこまつり (20日・21日)

20日21日は、園内で「ふたばっこまつり」の日として、出店ごっこやゲーム、盆踊りなどを2クラス毎にホールで楽しむ予定です。※ふたばっこまつりは、保護者会の役員の方々がお手伝いして下さいます。

●誕生会 (27日)

子ども達は、自分の誕生会やお友だちの誕生会もとても楽しみにしています。皆でお祝いする気持ちを大切にしていきたいですね。



☆お知らせ

ひかりぐみの岡田彩加先生が入籍し、満(みつ) 彩加先生になりました。

「フアールでなく、ゴキブリ昆虫記」



いよいよクワガタ・カブトの出番がやってきた。しかし、今年はおかしなことがあった。春まだ浅き4月中旬に、「クワガタを捕まえた」と、0君が走って来た。確かに、手にしていたのは小さいけれどクワガタだった。それにしても、早すぎる。これも自然環境の破壊・地球温暖化の現象か。▼北竜台の園は森の中にあるので、虫の宝庫である。クワガタ・カブトは毎日沢山捕れる。大きなナナフシ、美しい玉虫、鬼やんま等、珍しい虫もいる。初夏から秋に、切り株の上で、自慢のクワガタ、カブト場所が始まる。都会から転園してきた子も、初めこそ怖がるが、周りの子が平気で、虫をつかんでいるのを見て、青虫やカタツムリを手にのせて眺めるようになる。▼女の子は、「小さな青虫やダンゴ虫が好きだ。初めは「気持ち悪い！」と言っていた子が、手の甲にダンゴ虫を乗せ、モソモソ動く様子を目を細めて、「かわいい！」なんて言い出す。そのうち牛乳パックを抱え、もつたいぶって「見せてあげようか」と言う。中味は分かっていたので見たくはないが、一応、覗いてあげる。ダンゴ虫が重なってウジャウジャ動いている。嬉しそうに「お家に持って帰るの」と・・・牛乳パックの中を覗いたお母さんの顔が目につく。ゆめゆめ「かわいい！」なんて言うお母さんはいないだろう。「ギャー、ウエー」と、絶叫が聴こえてくる。▼男の子は、黒光りする強そうなのが好きだが、お母さんが抗議してきたことがある。連絡帳に「ゴキブリなど、持ち帰らせないで下さい」と書いてあった。油虫と言われるとおり、油を塗ったようにピカピカと黒光りして、ヒゲをピクピクさせ、動きも早い。忍者のように格好良い？虫かごに入れて意気揚々と「すごいヤツを捕まえたよ」と見せたのでしよう。ゴキブリの大嫌いなお母

さんは(ゴキブリを好きな人はそうはいないでしょうが)ギョットした。そして、前述のとおりお怒りになった。決してゴキブリと気付いていながら、持ち帰らせたわけではないのだが。▼ゴキブリは元々、山林など暗くジメジメしたところで生息していて、それが家の中の暗いところに侵入してくるらしい。ゴキブリを家の中で見つけると、ギャーギャー叫んで、テーブルの上に乗ったりする人もいる。それを虫かごに入れて持ち帰ったら、激怒するのは当然である。しかし、いまだかつて、園庭でゴキブリを捕まえた子はいない。なにしろ素速っこい。緊急時に隠し持った羽根を広げ、飛び去ることもできる。その強敵を、何と素手で捕まえたという。思わず「すごい！よくやった！」と言いそうになった。▼私達は、このせわしないデジタル社会の中で、電子機器に振り回され、人間らしい生活ができなくなってしまう。幼児期は自然の中で、自由に伸び伸びと生活し、体験することが人間らしい成長を保障すると思う。自由に虫取りをさせたい。この文章を書き終わった後に、「東ロボくん」開発の国立情報学研究所教授の新井さんが、次のように語っていた。「AIを使いこなせなければならぬ社会は、もう後戻りできないが、使いこなせる大人になるためには、幼少期にこそ、「サル」として育てる必要がある。二次元の世界には、舌さわりも手触りもない、そもそも平面的なものを立体的にみようというのは無理。体で暑さ寒さを感じる、こうすると転ぶんだとか、昆虫が動く様子をつと見て、「動く」という統一的原理を認識するとか、そういうことを無言のまま学ぶ時期がある。その時期が十分ないと、その後の発達が難しくなるように人間はできている。」我が仲間をサルとは言い過ぎと思うが、私も園長ゴリラと言われている。原始的に生活をさせよう、ということだろう。

理事長 浅田 精利

